

お知らせ

◆長崎市立遠藤周作文学館イベント

編集者が語る遠藤周作

日時 10月12日(土)

13時30分～15時30分

会場 遠藤周作文学館 第Ⅱ展示室

出演者 高橋千劔破氏、宮辺尚氏、高橋一清氏、斎藤陽子氏

申込先 6頁に詳細

◆遠藤周作関連講座

◎世田谷文学館講座

「遠藤周作と歴史小説」

講師 高橋千劔破

日時 10月19日(土)

14時～15時30分

会場 東京・世田谷文学館

世田谷区南烏山1の10の10

※京王線「芦花公園」駅下車、徒歩5分。駅に案内板があります。

代表作の多くは歴史小説です。月刊「歴史読本」の編集長として遠藤周作と関わった講師が、思い出をまじえ語ります。

申込 事前に電話でお問い合わせください。

☎03-5374-5374

◎朝日カルチャーセンター講座

「遠藤周作から教えられたこと」

——おどけと哀しみ——(全3回)

(連続講座「文章で表現する技術」の10～12月期です)

講師 加藤宗哉

日時 10月11日(金)、11月8日(金)、12月13日(金)

いずれも13時～14時30分

会場 朝日カルチャーセンター新宿

新宿区西新宿2の6の1

新宿住友ビル10階(都営大江戸線「都庁前」駅、もしくはJR「新宿」駅西口から)

申込 ☎03-3344-1945

受講料 会員 9720円(税込み) 一般 11664円(税込み)

◆加賀乙彦の新刊

『フランドルの冬』

2019年7月発売

小学館P+D BOOKS 650円+税

著者自身の留学体験をベースにした長編処女作。1967年に発表され、芸術選奨新人賞を受賞。フランス北部に広がるフランドル地方のサンヴァン精神病院に勤務する日本人留学生コバヤシの精神科医としての日常を描く。復刻にあたって、著者あとがきも新たに併録。

『妻の死—加賀乙彦自選短編小説集』

2019年6月発売

幻戯書房 3200円+税

芥川賞候補作「くさびら譚」から単行本未収録の表題作「妻の死」まで、12篇が収録されている。巻末に『加賀乙彦短篇小説全集』の各巻に付している

た随筆「長篇小説執筆の頃」が収められている。特に、突然に逝った妻と、その後の日々を描いた「妻の死」は、作家の静かな眼を感じさせて胸を打つ。

◆「会報」の原稿募集

会員の皆さんの原稿を募集します。900字(半ページ分)あるいは1800字(1ページ分)。遠藤周作の人と作品について、あるいは遠藤文学との関わりなど何でも結構です。

なお、原稿は必ず下記「周作クラブ」宛てに郵送してください。掲載の際にはご連絡差し上げます。

◆「周作クラブ」会員募集

「周作クラブ」では会員を募集しています。遠藤文学ファンはもちろん、これから読んでみようという方々も大歓迎です。

年会費は3000円。年4回発行の「会報」が送られるほか、会が主催する「文学セミナー」や遠藤文学の足跡を訪ねる「遠藤文学・原点の旅」への案内、新年会や各種懇親会に参加できます。下記「周作クラブ」まで、ハガキかファックスでお申込みください。折り返し、案内書と会費振込み用紙をお送りします。

◆編集後記

▼やっと梅雨空が終わったのはいいのですが、連日の猛暑で、いささか参っています。少年の頃には、真夏の炎天下、魚取りや昆虫採集に夢中になり、真つ黒になって飛び回っていました。そのころの思い出は尽きることがありません。六十年以上を経た今も、懐かしく思い出します。

▼思い出といえば、遠藤先生との思い出は尽きることがありません。たまたま小生が「歴史読本」という月刊誌の編集長だったときに知り合ったのですが、すぐに旅行に誘われ、それから日本各地に何回も一緒に遊んでいたか判りません。また、劇団樹座にも入れられ、遠藤先生が永世名人位であった「宇宙棋院」の幹事もさせられて、楽しく愉快に人生を送ることができました。本会報への連載ネタは尽きることがありません。

▼遠藤先生は旅行に行くと、大体は、おちゃらけたり、ふざけたりして皆を笑わせているのですが、時折、ふつと敬虔なクリスチャンの顔を見ることがあります。本文のエッセイもその時のことです。(颯)

「周作クラブ」第76号

2019年8月発行

■発行人 加賀 乙彦

■編集人 高橋千劔破

■副編集人 亀岡 園子

■編集部 一田佳希、大原雄、近藤恭弘、高木香織、南紀洋子

■発行所 東京都世田谷区上馬4-29-17 加藤宗哉事務所内「周作クラブ」

TEL080-1097-11979

FAX03-3421-1521

●次回の会報発行は11月の予定です。